

地域交流科目 履修案内 2015

「修了証」取得者からのメッセージ



村本真菜
Mana MURAMOTO

教育人間科学部 マルチメディア文化課程 卒業
現在、名古屋鉄道株式会社

地域交流科目を受講する事で、まちづくりやNPOで活躍している外部の方と交流し、実践的な考えを知る機会を得ることが出来ました。講義で学んだ事を生かし、私は3年間、和田町商店街で賑わいづくりの活動に取り組みました。商店街や地域の住民の方々と共に和田町を盛り上げていく中で、人と人の繋がりの大切さを再確認し、身近な地域に対し自分がどのように関わっていくべきかを考える事が出来るようになりました。

地域交流コア科目： 地域連携と都市再生A・B
選択必修科目： ワークショップ「多角的共生をめざして」
建築の環境と防災、共生支援論A
地域課題実習： 公共空間の活用とにぎわいづくりPJ



足立喜一郎
Kiichirou ADACHI

経済学部 国際経済学科 卒業
現在、横浜市役所

神奈川の自然はどうなっているのか。環境政策は何が行われているのか。地域を限定した身近なテーマ設定により、普通の授業では得られない臨場感を味わいました。実際に行ってみないと分からないことばかりで、新しいことを学ぶたびに人のつながりが増え、広い視野を持つことができました。地球規模の環境や経済も、地域で人が影響しあうことから始まると身をもって感じました。これからも「グローバル」を心がけようと思います。

地域交流コア科目： 地域連携と都市再生A・B
選択必修科目： 地方財政
地域課題実習： 地域から水と大気を考えるエコプロジェクト



市木晶子
Akiko ICHIKI

経営学部 会計・情報学科 卒業
現在、ソニー株式会社

私は「エコの芽を育てるプロジェクト」に参画しました。1年目は上級生と私の4名でしたが、2年目は同年度の学生が加わり8名になりました。地域課題実習では学内から外に出て、地域の方に厳しくも温かいご指導を頂く機会もあります。自ら課題を設定し、積極的に動くことを通じて、沢山のものを得ることができます。年度末には成果発表の機会があるので、自分のしたことをしっかりとプレゼンテーションできる能力を高めて下さい。

地域交流コア科目： 地域連携と都市再生A・B
選択必修科目： 建築の環境と防災、環境をめぐる諸問題、企業環境システム論
地域課題実習： エコの芽を育てるプロジェクト



猪原 真理子
Mariko INOHARA

工学部 社会空間システム学専攻 建築学コース
現在、東京都庁

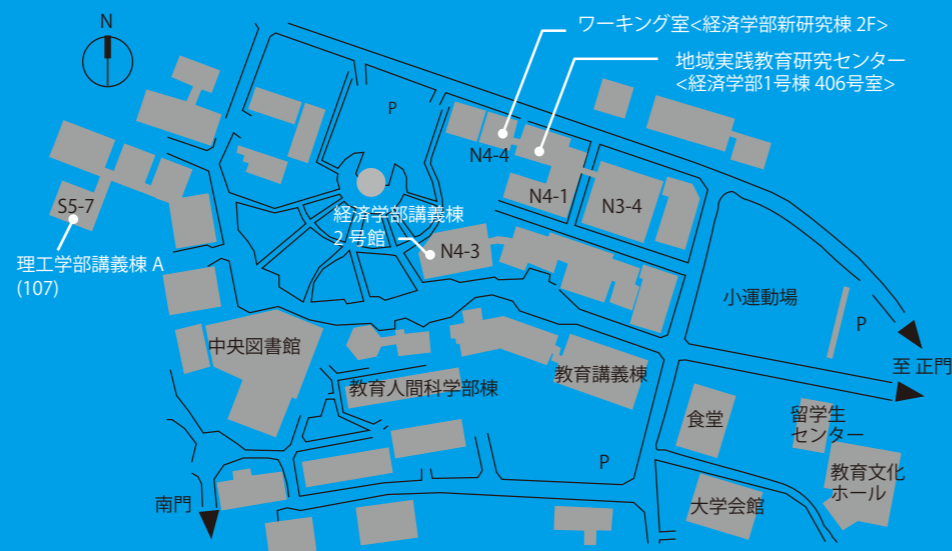
私は地域課題実習を機に、4年間和田町地域の活性化活動に取り組み、人と人の信頼関係の大切さを実感しました。これまでの自らの提案は、他の学生だけでなく、住民・行政・NPO等の方々の協力のもとで実現されてきました。その裏には、地域のまちづくり会議や行事への参加など、現地での人とのコミュニケーションの積み重ねがあります。今後はその行動力を活かし、さらに広いフィールドでの課題解決に取り組んでいきたいです。

地域交流コア科目： 地域連携と都市再生A・B
選択必修科目： 都市と都市計画、居住空間の計画
屋外気候と建築環境、都市と自然環境
地域課題実習： 公共空間の活用とにぎわいづくりPJ、和田べんプロジェクト

● 修了証を取得した人はセンターのHPで紹介・掲載することを予定しています。

● YOKOHAMA

オリエンテーション
4/15 (水) - 4/17 (金) 昼休み
中央図書館メディアホール



グローバルな視野をもって地域課題を解決する
先端的かつ複合的な実践能力を身につけるプログラム

■ 問合せ・連絡先
地域実践教育研究センター
〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台79-3
横浜国立大学 経済学部1号館 406号室
TEL&FAX: 045-339-3579
E-mail: chiki-ct@ynu.ac.jp
URL: http://www.chiki-ct.ynu.ac.jp

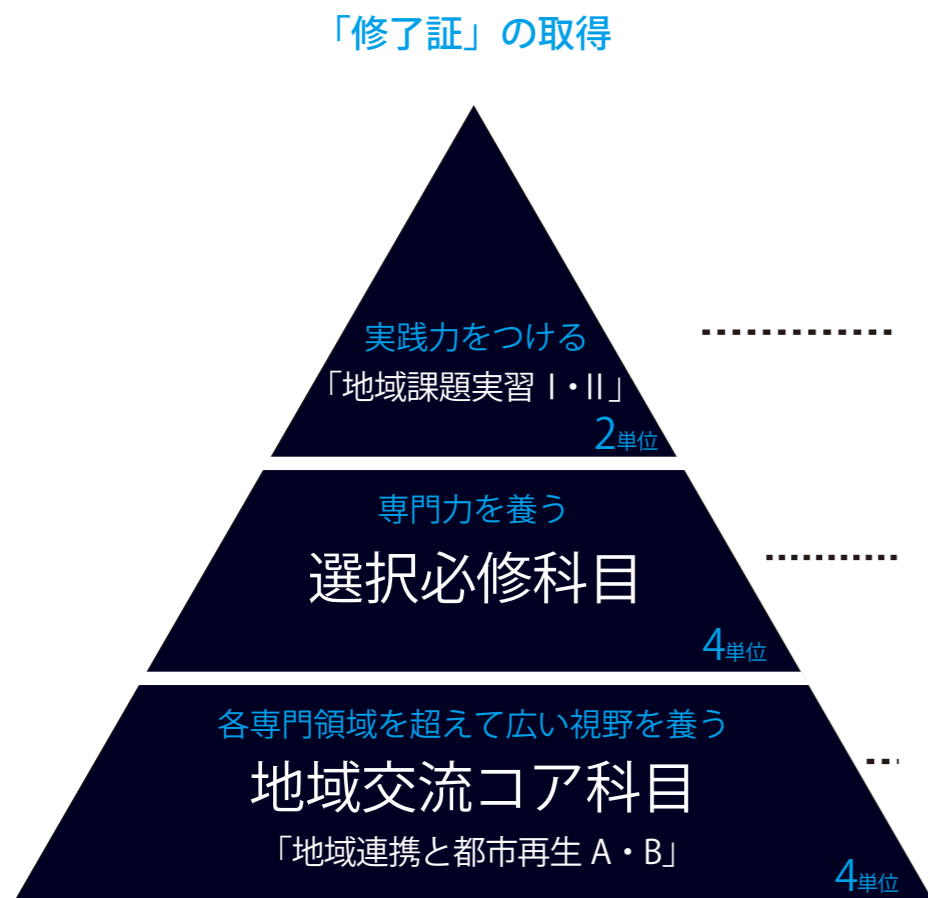
『地域交流科目』の概要

グローバル化が進むなかで、実際の経済活動の場である都市・地域のそれぞれが活力を維持し、そこに生活する市民の生活の質をいかに高めていくかが21世紀初頭の大きな課題になっています。このような現代的課題とニーズに対応するため、本学では「教育学」「経済学」「経営学」「理工学」が連携して各学部領域を横断して学ぶ副専攻プログラム『地域交流科目』を設置し、グローバルな視野をもって地域課題を解決できる先端かつ複合的な実践能力を身につけるプログラムを運営しています。

『地域交流科目』は、①「地域連携と都市再生」4単位、②「選択必修科目」4単位、③「地域課題実習」2単位から成る科目で構成されています。この科目の受講・参画により所定の10単位を修得すると、副専攻プログラムの修了証を取得できます。

*副専攻プログラムとは・・・知識基盤社会が求める総合性・学際性への対応、また学生からのニーズへの対応として自らの所属する専攻(課程・学科)以外の分野を系統的に学習するプログラムです。

グローバルな視野をもって地域課題を解決する
先端かつ複合的な実践能力を身につけるプログラム



地域課題実習Ⅰ・Ⅱには、横浜・神奈川地域を主なエリアとして活動を行う先端かつ複合的なプロジェクト(p.3-5)が立ち上げられており、各自の努力に比例して実践力をつけることができます。プロジェクトは当シラバスに記載されている「課外実習プロジェクト」と、学生自らがプロジェクトを立上げる「学生公募型プロジェクト」の2つのカテゴリーがあります。地域課題実習はⅠ(春学期)とⅡ(秋学期)に分けて開講していますが、1年を通して履修登録することが原則です。単位取得は、参画状況やレポート等の提出物、プロジェクト全体報告への参画状況をみて評価します。

選択必修科目は、都市、地域で実践的に活動するにあたって必要な専門力を養うための科目です。教養教育科目・各学部専門科目のうち本プログラムに関連する全科目(p.6参照)を選択必修科目と位置づけ、全学の学生に開放した科目として開講しています。

地域連携と都市再生A・Bは、「地域課題実習」の基礎となるコア科目です。専門家、自治体、企業、NPOなどがゲストスピーカーとして実務経験に即した授業を行い、各専門領域を超えて横浜・神奈川について学ぶことができます。A(秋学期)とB(春学期)に分けて開講します。

履修・申請の流れ

プロジェクト申請

「オリエンテーション」

4月15日(水)～17日(金) 昼休み
場所: 中央図書館メディアホール

- ・地域課題実習の中から履修・参画をしたいプロジェクトを申請する
- ・学生公募型プロジェクトを立上げる人はメンバーを集めて申請する

! 申請はオリエンテーション期間 or 4月17日 までにセンターに提出

地域交流科目の説明・相談と、地域課題実習の各プロジェクトの紹介を行います。履修する予定の人、関心・質問がある人は参加してください。地域課題実習を履修する人、参画する人は希望プロジェクトを応募用紙(様式1)に記し申請してください。(応募用紙はオリエンテーションにて用意しています。HPに掲載されている応募用紙をダウンロードして提出しても良い。)

昨年度から継続している地域課題実習の各プロジェクトについては、HPにて活動内容がわかります。

<http://www.chiki-ct.ynu.ac.jp>

履修登録

春学期: 4/6(月)～4/17(金)
秋学期: 10/1(木)～10/16(金)

- ・「地域連携と都市再生A・B」(教養教育科目)
- ・選択必修科目(教養教育科目・学部専門科目)
- ・「地域課題実習Ⅰ・Ⅱ」(教養教育科目)

履修申請は、p.6の地域交流科目一覧を参考にしながら登録しましょう。

地域課題実習は春学期「地域課題実習Ⅰ」、秋学期「地域課題実習Ⅱ」毎に履修登録する必要があります。秋学期に履修登録を忘れる人が多いので気をつけましょう。

「地域交流科目」

- ・「地域連携と都市再生A・B」
- ・選択必修科目
- ・「地域課題実習Ⅰ・Ⅱ」

10単位

『地域交流科目』は4年間をかけて履修し、修了証を取得することが可能です。

各科目をいずれから履修しても良いですが、教養教育科目の「地域連携と都市再生A・B」を1～2年生のうちに履修するとスムーズです。

「修了証」 〆切: 4/17、11/20、3/4

地域交流人材育成教育プログラムの修了認定
修了証取得者からのメッセージ → 表紙裏面

修了認定の要件は以下の通りです。

① 地域交流コア科目(必修)	4単位取得
② 選択必修科目	4単位以上取得
③ 地域課題実習(必修)	2単位取得
④ 上記①～③の申請に基づくGPA※1	3.0以上

修了すると修了証の授与とともに、修了記録として成績証明書の特記事項欄に「副専攻プログラム(地域実践)修了」と記載されます。また、センターのHPにて修了者の紹介が掲載される予定です。就職や進学の際、各自の実践的な取り組みを端的にアピールするものとして効果が期待できます。修了証は自己申請により発行されるものであり、下記3点の提出が必要です。

- 1: 地域交流科目 修了認定申請書 → センターのHPに掲載
- 2: 成績証明書
- 3: レポート等

提出は随時受け付けていますが、4/17、11/20、3/4毎に〆切り、5月、12月、3月に発行されます。

申請者の学部学年は問わず、大学院生も申請可能※2です。

※1 GPA(成績評価)にあたっては、入学年度に応じた算定を行います。
 ※2 地域交流人材育成教育プログラムの修了認定に際して「選択必修科目」は他大学で修得した科目による認定もできる場合がありますので、個別に相談下さい。

コア科目「地域連携と都市再生A・B」

コア科目A 地域連携と都市再生A 春学期・月5限

担当教員:内海宏(横浜プランナーズネットワーク)
志村真紀(地域実践教育研究センター)

【授業のねらい・目的】
21世紀初頭の我が国の大きな課題となっている地域活性化や都市再生を、地域のさまざまな主体が連携・協働することを通して実現するにはどうしたらよいかについて、特に横浜のさまざまな地域を具体的にとりあげ、まちづくりの最前線で活躍する専門家から学ぶとともに、自ら授業に参画し、学問分野を超えた基礎的素養を身につける。

【履修目標・達成目標】
●現代の地域がかかえる課題の実態とその背景を、横浜を通して理解することができる。●地域課題を解決するための主要な主体の役割と相互の連携について理解することができる。●具体的課題を地域の中から発見し分析し解決していくプロセスを現地踏査による評価やレポート作成により経験することができる。

【講義スケジュール】
1.イントロダクション～横浜における地域連携と都市再生
2.世界の中の横浜、日本の中の横浜
3.横浜という都市を通して日本の近代化を語る
4.フィールド(1) 郊外地域の現状と課題
5.フィールド(2) 中間地域の現状と課題
6.フィールド(3) 都心地域の現状と課題
7.今日の横浜の都市課題～人口減少社会に向けて
8.参加型授業(1) 横浜の都市課題について考える
9.参加型授業(2) 横浜の都市課題について発表する
10.地域まちづくりに向けた主体とその連携
11.地域再生モデル(1) 産業と地域まちづくり
12.地域再生モデル(2) クリエイティブシティと地域まちづくり
13.地域再生モデル(3) 都市農地再生と地域まちづくり
14.地域再生モデル(4) 子どもとまちづくり
15.まとめ
*講義スケジュールはゲストの都合によって順番が変更する場合があります。

コア科目B 地域連携と都市再生B 秋学期・火4限

担当教員:高井正(帝京大学 経済学部)、
伊集守直(経済学部)、志村真紀(地域実践教育研究センター)

【授業のねらい・目的】
大都市・地方都市を含む都市再生のあり方について、「地域経済のなかの都市」、「行財政システムに枠づけられた都市」という視点から考える。その際、都市・街を取り巻く環境との関係を重視し、広域的視点から検討していく。事例研究を中心に、自治体・企業・NPO・専門家などを講師として招くとともに、市民の聴講も呼びかけ、講義自体を通じて地域交流を推進する。

【履修目標・達成目標】
1. 神奈川地域の事例を踏まえ、地域が抱える課題と周辺環境との関係を理解する。
2. 地域課題を解決するための主要な主体(自治体・企業・NPO・専門家など)の役割と相互の連携について理解する。
3. これにより、学生が分析力、企画力、調整力等、実社会で必要とされる実務上のスキルを習得することを目標とする。

【授業の方法】
本授業は講義形式で行ない、①基礎学習、②地域の現状・課題、③地域連携の事例、④社会的視点から踏まえたまとめ、という順序で進める。講師の調整を含む講義全体のアレンジをコーディネーターである高井が行う。
①②③については、自治体、企業、NPO、専門家などを講師として招聘し、地域の現状・課題及び地域連携の事例の紹介を行う。④については、行財政の視点から研究者による学術的な視点を提供し、講義全体を通じた「地域連携と都市再生」の方向性について考察する。

【講義スケジュール】
1回 :①オリエンテーション :高井
2～5回:基礎学習(②神奈川の姿、③地方自治、④NPO、⑤地方行政制度):神奈川県
6～14回:地域の現状・課題Ⅰ～Ⅲ(⑥、⑨、⑫):神奈川県
地域連携の事例Ⅰ～Ⅲ(⑦、⑩、⑬):NPO・企業
社会的視点Ⅰ～Ⅲ(⑧、⑪、⑭):横国大教員
15回 :⑮総括と期末試験対策 :高井
16回 :⑯期末試験

1-4 ローカルなマテリアルのデザイン

担当教員:○志村真紀(地域実践センター)
連絡先:maki-s@ynu.ac.jp / 内線 3579

【授業のねらい・目的】
グローバルなモノの流れにより、我々は遠い国のモノを手に入れることが比較的簡単にできるようになった。しかし、我々の身近にあるローカルな素材やモノに目を向けると、グローバル化により需要が減少したり、経営の持続化が困難であったり、価値を見失いがちなモノもある。本プロジェクトではローカルなマテリアルとして地元の野菜や魚類、木材、建築材料、伝統工芸品など、参画する学生の興味対象に沿って様々な素材をリサーチし、その物流やマテリアルによってつくられる空間や風景について捉えたり創造することを通じて、普及促進のための情報発信やデザイン活動を行う。
なお、本プロジェクトは昨年度まで川崎市を拠点に活動を行ってきたガラスシティ・プロジェクトの発展版として位置付ける。

【活動の流れ】
リサーチ/ローカルなマテリアルに関する情報の発信(ブックレット作成orマテリアルのデザインor普及促進活動)

【学生参画の条件】
興味あるマテリアルの現地リサーチができる人

【学生参画の意義】
横断的な観点から学びデザインへとつなげる。

1-5 水辺と共生するまちづくり

担当教員:○志村真紀(地域実践センター)
連絡先:maki-s@ynu.ac.jp / 内線 3579

【授業のねらい・目的】
東日本大震災では津波により東北沿岸部では大きな被害がでました。また、今後における大地震の可能性から津波による被害が大きく想定される地域もたくさんあります。当プロジェクトでは神奈川県逗子市をとり、日常的なまちづくりをしながら、災害にも強いまちづくりを促していくための事前復興に関する提案や活動を行っていきます。

【活動の流れ】
・前年度の取組みの流れをおさらい
・今年度の活動内容について検討
・逗子市における住民や行政との連携
・逗子市における活動

【学生参画の条件】
意欲をもって創造的に活動できる人。
コミュニケーション力を培いたい人。
活動は毎週1回程度で活動日は参画者で決めます。
時々、土・日に逗子市での活動が可能なる人。

【学生参画の意義】
海や山が近く、文化性が高く、住みやすい土地柄である逗子市の魅力を堪能し、日常的なまちづくりのなかで災害にも強い街になる方法や活動について楽しく学びます。

1-5 市民活動を体験して考える協働型まちづくりプロジェクト

担当教員:○志村真紀(地域七)、高見沢実(都市イ)
連絡先:maki-s@ynu.ac.jp / 内線 3579

【授業のねらい・目的】
横浜では多くの市民活動団体が多種多様なテーマを軸に、それぞれの趣旨・使命をもって活動に取り組んでいます。このプロジェクトでは、NPO法人アクションポート横浜主催のNPOインターシップ事業との協働プロジェクトとして行う市民活動の実態や課題を現場で体感する活動を軸に、事前・事後学習で協働型まちづくりに必要な多様な協働の在り方について、自ら主体的に学ぶものです。具体的には、夏休み期間中にNPO法人アクションポート横浜のコーディネートの下での横浜市下の市民活動団体での実質10日間以上の活動体験を行います。活動体験先団体の主なテーマは環境保全、地域福祉、子育て・子ども青少年支援、国際協力、IT・アートによるまちづくり等があります。

【活動の流れ】
5～7月 市民活動団体とのマッチング・研修
8～10月 市民活動団体での個々の活動体験(全10日間程度・団体により変動)
11～1月 NPOインターンシップを踏まえた実践的活動
1～2月 各自レポートまとめ・提出

【学生参画の条件】
学年・学部は問わない。ただし、意欲と責任をもって市民活動団体の活動に参加できる人。

【学生参画の意義】
地区でまちづくりをすすめているNPO等を通じて、実際のまちづくりの場で課題を学ぶことができる。

「地域課題実習Ⅰ・Ⅱ」

カテゴリ① 課外実習プロジェクト

1-1 モビリティ・デザインの実践

担当教員:○中村文彦(都市イノベーション研究院)
連絡先:f-naka@ynu.ac.jp / 内線 4033

【授業のねらい・目的】
都市におけるモビリティの未来像を提案する演習を行う。具体的には、参加メンバーを複数の班にわけ、具体的な場所での検討を行う。場所の候補としては、横浜市内他を予定している。

【活動の流れ】
最初3回 過去のモビリティデザイン実践演習成果の復習
続く3回 現地調査準備
続く3回 現地調査
続く3回 現地調査結果集計分析
最後3回 とりまとめ

【学生参画の条件】
金曜6限時間帯に参加できること。時々土曜に現地に行けること。

【学生参画の意義】
具体的な都市交通の課題に直接接することができる。

1-2 かながわ里山探検隊

担当教員:○小池治(国際社会科学研究院)
連絡先:okoike@ynu.ac.jp / 内線 3642

【授業のねらい・目的】
神奈川県内の里地里山をフィールドに地域活性化の課題をさぐるプロジェクトです。現地調査では、里地里山の保全に取り組んでいる団体を訪問し、インタビューをしたり、イベントに参加します。
具体的な実習活動については参加学生と相談しながら決めていきますが、里地里山の散策マップやガイドブックの作成など、かながわの里地里山の活性化に資する活動にも取り組みたいと考えています。

【活動の流れ】
4～8月 里山探検PartⅠ(お花見、田植え、草取りなど)
10月～12月 里山探検PartⅡ(収穫体験、お祭りなど)

1月 報告書の作成
2月 成果報告会

【学生参画の条件】
農作業や山仕事に関心がある人。年間をつうじて活動に参加できる人。

【学生参画の意義】
里地里山の保全に取り組んでいる団体や行政の担当職員、他大学の学生との交流をつうじて地域づくりの課題や方法を学びます。フィールド調査を踏まえて持続可能な地域づくりのアイデアを考えてください。

1-3 かながわ ニューツーリズム

担当教員:○氏川恵次(国際社会科学研究院)
連絡先:ujikawa@ynu.ac.jp / 内線 3538

【授業のねらい・目的】
神奈川県では近年、湘南・鎌倉・箱根といった、豊かな自然に恵まれ、多様な文化を育んできた地域での、観光等を通じた、新しいライフスタイルのあり方が注目されてきています。このプロジェクトでは、とくに小田原市や周辺の箱根等を基点として、かながわのものづくりにふれる産業観光、自然との共生を考えるエコ・グリーンツーリズム、歴史的な文化や最近のサブカルチャーにもふれる文化観光、といったフィールドワークを予定しています。
学生の皆さんは「ローカル」な視点から、日本のみならず、世界の人々が神奈川ひいては日本にどのような魅力も感じるか、またいかに世界に発信していくかについても、市民、企業、行政の方々と考えていきます。

【活動の流れ】
4月～5月 課題の設定にむけた検討会
6月～8月 活動 :発表会
10月 中間報告会
11月～1月 活動 :最終報告会
2月 成果報告書の作成

【学生参画の条件】
ただし5人以上の参加がない場合には、グループでの活動が難しくなるため、個別研究になる場合があります。参加希望者は事前に教員と相談することをお勧めします。

1-6 電子マップで発見し協働する「ほどがや」

担当教員:○佐土原聡,吉田聡,稲垣京子(都市イ)
連絡先:sadohara@ynu.ac.jp / 内線 4247

【授業のねらい・目的】
空間認識は人が生きていく上で最も基本的な能力である。GIS(地理情報システム)は、コンピュータで地図を描き、その属性情報も格納できる空間情報技術である。それをフルに活用することで、地域の複雑な事象を重ね合わせ、情報処理して正確に把握し直感的に理解することができる。地域課題を見える化し、人々がいっしょに課題解決にあたるための協働支援ツールとなる。本実習では、保土ヶ谷区役所と連携・協働し、GISを活用して地域課題に関するさまざまな地図を作成して、区役所の政策担当者や議論しながら、地域課題への理解を深め、その分析や解決のための提案を行う。

【活動の流れ】
4月～6月:春学期のテーマ設定とGISの習得、マップづくり / 7月:発表会
10月～12月:秋学期のテーマ設定、マップづくり
1月 :発表会

【学生参画の条件】
GIS習得環境から、4名程度

【学生参画の意義】
客観的なデータに基づいて地域課題をとらえ、解決策を考えていく面白さを、保土ヶ谷区役所と協働で実践的に体験することができる。また、そのための不可欠な情報技術であるGISを習得し、使いこなすことができるようになる。この体験と習得技術は、今後、さまざまな分野で活かすことができる。

1-7 横浜市と市民生活白書をつくらう2015

担当教員:○居城琢,岡部純一,相馬直子(国社)
連絡先:ishiro-taku@ynu.ac.jp / 内線 3567

【授業のねらい・目的】
本プロジェクトは生活上で生じるさまざまな問題点を対象に、横浜市をフィールドとして、学生自身が調査に取り組み、住みよい地域をつくるための素材を発掘することを目的とします。その成果を蓄積していく中で、横浜市が編集・発行している『横浜市市民生活白書』に対して、学生の視点からの提言を行い、実際の政策運営に貢献していきます。地域で実際に起きている諸問題に対して、現場の視察・ヒアリングを通じて、自分の目と耳で確かめて、その解決策を導く糸口を見つけれられることを期待します。

【活動の流れ】
4月～5月 課題の設定にむけた検討会
6月～8月 活動 /10月 中間報告会
11月～1月 活動
2月 最終報告会 /3月 成果報告書の作成

【学生参画の条件】
実際に地域の現場に飛び込むことができる学生を求めます。ただし、5人以上の参加がない場合には、グループでの活動が難しくなるため、個別研究になる場合があります。参加希望者は事前に教員と相談することをお勧めします。

【学生参画の意義】
基本的には、学生自身による自主的なプロジェクト活動になりますが、横浜市職員の方々の支援を受けながら、調査を進めていくことができます。みずから課題の設定、調査、成果報告に向けた準備・活動を進める能力が養われます。

1-8 現代世界の課題の探索と協力の実践-途上国・被災地から感じる世界-

担当教員:○小林誉明(国際社会科学研究院)
連絡先:t-kobayashi@ynu.ac.jp / 内線 3611

【授業のねらい・目的】
世界は紛争、災害、格差など深刻な「課題」に満ちている。そこから遠く離れた場所において外部者として世界の課題を論じることは可能であるが、その渦中に身をおかなければ見えてこないことは多い。本実習は、解決すべき課題を抱えている(と思われる)地域に「押しかけ」、自らの目で現実を見て、感じた問題意識に基づいて「自分は何かできるのか」を模索し、関係者に働きかけながら「実践してみる」ことを目的とする。本年は、国内フィールドとしては台風土砂被害からの復興過程にある伊豆大島、海外フィールドとしてネパールがフィリピンを想定。

【活動の流れ】
4月 関心の共有と調査手法習得
5月-8月 国内フィールド実習および定期勉強会
9月 海外フィールド実習(希望者のみ)
10月-1月 国内フィールド実習および関連機関訪問
2月 活動成果報告会

【学生参画の条件】
主体的に「何かやってみたい」という意欲のある学生であれば、学部・大学院の所属や専門分野、学年等は問わない。ただし週末や夏休みや春休みの期間の一部を割く必要はでてる。

【学生参画の意義】
「当事者」の1人として何ができるか、なにをやってはいけないのか、実現するにはどうしたらいいのか、どこに乗り越える壁があるのか、といったことを「現実」の問題として捉え、責任をもって取り組み経験が得られるであろう。代表者は、国際協力機構(JICA)において途上国への国際協力を実践してきた。国際協力に関心のある学生の積極的な参加を期待する。

1-9 ほ도가や「みちまち」プロジェクト

担当教員:○野原卓、藤原徹平(理工学部)
連絡先: noharat@ynu.ac.jp / 内線 4065

【授業のねらい・目的】
保土ヶ谷区保土ヶ谷地区(旧東海道地区)を中心として、「みちのまちづくり」のより地域の魅力づくりについて研究・実践する。
本学の位置する保土ヶ谷区には、歴史の積み重ねを有する保土ヶ谷宿・旧東海道をはじめとした豊かな地域資源や可能性がありつつ、これらが顕在化されていないため、みちとその周辺の資源のあり方をキッカケにして、どんな地域のまちづくりができるか、みち(街路)や沿道のデザイン、地域資源の発見と発信、回遊性の構築、地域のコミュニティ形成などを通して、「みちのデザインマネジメント」について、地域の関係主体(行政・地域住民・地域団体)とともに考える。
本年度は、屋台(ほだわごん)を核とした場づくり、マネジメント、使い方・魅力づくり実験、みちのあり方検討などを中心に進めてゆく。

【活動の流れ】
春学期: 屋台(ほだわごん)を活用した場づくり実験
夏季: 回遊性実験・実地調査等
秋学期: みちのあり方・デザイン検討
※保土ヶ谷区および地域団体(商店街、ほ도가や人・まち・文化振興会等)と協働による、旧東海道でのまちづくりへ協働実践(ほだわごん作成)及び運営も検討中

【学生参画の条件】
保土ヶ谷区の地域に興味を持ち、年間を通じて、自主的かつ積極的に地域課題に関する活動に参画すること。

【学生参画の意義】
本実習は、地域が抱えている課題や隠された魅力に触れることで、より深い地域理解と愛着醸成を獲得し、実践的活動の中で自主的な企画力・運営力・思考力を養うことができる。さらに、保土ヶ谷区及び地域団体と協働する実践的な活動に参画することができる。

1-11 アーツコミッション・ヨコハマインターンシップ

担当教員:○藤原徹平(都市イノベーション研究院)
連絡先: fujiwalabo@gmail.com / 内線 4071

【授業のねらい・目的】
アーツコミッション・ヨコハマは、2007年より横浜市芸術文化振興財団が運営している事業です。横浜に集うアーティストやクリエイター、NPO、市民、企業、学校などの様々な「創造の担い手」をサポートするプロジェクトです。
横浜でのクリエイティブ活動に関する相談やコーディネート、助成プログラム、芸術不動産(創造活動の場づくり)、プロモーション、国際交流事業などを行っています。日本の自治体でいち早く取り組みをはじめた創造都市政策の現場として、また、芸術文化、まちづくり、産業に横断的に取り組む、先駆的な中間支援事業として、高い評価を得ています。

【活動の流れ】
4月~6月○オリエンテーション(芸術文化施策、創造都市施策の座学、現地視察)
○助成制度の応募書類まとめ、審査会書記、交付事業のレポート(通年)
○創造都市プロモーション 取材、記事作成(通年)
7月~9月 ○横浜市・成都市アーティストインレジデンス事業、など
○関内外OPEN!の調査、制作サポート
10月~12月○横浜市・成都市アーティストインレジデンス事業一覧会制作サポートなど。
○関内外OPEN!の調査、制作サポート(本番ツアーアテンド等)
1月~3月○TPAM in YOKOHAMA制作サポート
○1年間の振り返り、次年度助成制度の計画、など。

【学生参画の条件】
①対象: 当事業に関心のある学部3,4年生又は大学院修士課程の在学者
②受入人数: 若干名 ③受入期間: 平成27年4月1日~平成28年3月31日
④活動日の自宅からの交通費、活動中の交通費は、実費支給。
⑤インターン(研修員)活動中、万一の事故などに備えて保険に加入します。費用負担及び手続きは当財団が担います。
⑥応募用紙の提出と選考(書類、面接)があります。
【学生参画の意義】
本実習は、地域が抱えている課題や隠された魅力に触れることで、より深い地域理解と愛着醸成を獲得し、実践的活動の中で自主的な企画力・運営力・思考力を養うことができる。さらに、保土ヶ谷区及び地域団体と協働する実践的な活動に参画することができる。

カテゴリ② 学生公募型プロジェクト

地域と連携した実践的な取り組みを横浜国立大学内の学生から広く公募します。学生公募型プロジェクトを立ち上げる学生は、事前にセンターへ連絡することによって、オリエンテーションの際にプロジェクトの紹介を行うこともできます。応募に関する詳細、条件、および申請書はセンターのHPに掲載。
■提出締切日: 2015年4月17日(金) 17時まで
■提出: 地域実践教育研究センター 経済学部1号館(N4-1棟) 406室

1-10 おおたクリエイティブタウン研究P(モノづくりのまちづくりを考える)

担当教員:○野原卓(理工学部)
連絡先: noharat@ynu.ac.jp / 内線 4065

【授業のねらい・目的】
日本の産業を支えてきた中小工場の集積する京浜臨海部(大田区・川崎市・横浜市)では、産業構造の変革に伴い、新たなモノづくりとまちづくりの関係を築く必要のある時代が到来している。特に、東京都大田区では、新たな方向性として「大田クリエイティブタウン」創出に向けての動きが展開している。本年度は、大田区矢口地区に設けられたモノづくりのまちづくり活動拠点である「くりらぼ摩川」を中心に、この施設をきっかけとしたモノづくりのまちづくりを考える上での現地調査・データづくり、活動企画とその実行、情報メディアの開発と発信などを通じて、ものづくり・まちづくり・観光等を一体とした実践を行う(首都大学東京・大田観光協会・大田区との協働)。

【活動の流れ】
通年: 月一度の拠点施設活用(くりらぼ摩川)への参加
拠点施設の活動に関する取材および記事の編集作成
春学期: 現地地域及び拠点の把握・理解、周辺地域に関する調査
拠点運営に関する企画検討
秋学期: 拠点運営への参画・実施
(モノづくりのまちづくりのための活動実践)。
おおたオープンファクトリーへの参加と企画運営

【学生参画の条件】
地域の課題に責任をもって取り組み、年間を通じて、地域の会合や実践にも積極的に参加する意思があること。

【学生参画の意義】
本実習では、地域が抱えている横断的課題(モノづくりのまちづくり)や地域資源に対して、より深い地域理解と課題解決に向けての実践力を養うことができる。また、他大学および地域団体・自治体等と協働することで、より実践的な活動に参画することができる。

1-12 まちづくりと地方自治

担当教員:○伊集守直(国際社会科学研究院)
連絡先: iju@ynu.ac.jp / 内線 3529

【授業のねらい・目的】
1990年代以降の地方分権改革の流れの中で、地方自治体あるいは地域の役割の重要性が増している。従来の集権的な行財政制度から分権的な制度への移行が取り組まれており、様々な政策領域において地域のニーズに合わせた政策作りが模索されている。
このプロジェクトは、まちづくりの現場に着目しながら、その取り組み内容や課題、参画主体、行政組織(市役所等)や政治的主体(議員や各種団体)との関係について検討する。また、国と自治体における規制や財源の関係などについてもあわせて検討することによって、まちづくりの現場がどのように形成され、実施されているのかということ学ぶ(なお、このプロジェクトで言う「まちづくり」とは、都市計画といった狭い意味ではなく、社会福祉や環境政策なども含む広い意味として捉えている)。

したがって、プロジェクト参加学生一人ひとりが、具体的なまちづくり活動に参加するのではなく、あくまでも観察者の立場から、政策実施の流れを学び、そこでの問題点や課題を批判的に検討するということが目的となる。

【活動の流れ】
春学期: 地方分権や地方自治に関する文献を輪読しながら、基本的な知識を獲得する。同時に、まちづくりに関する具体的な事例について学習し、研究課題の設定を行う。
夏休み: 研究事例に関する実地調査を行う。
秋学期: 研究課題に関する分析を進め、必要に応じて政策現場の見学、ヒアリング調査などを行う。研究成果報告として、ワークショップを開催する。

【学生参画の条件】
授業時間以外の研究調査等に参加が可能であること。
【学生参画の意義】
大学の講義などではつかむことの難しい実際のまちづくりの現場を見ることができる。研究課題の設定や調査の実施など、参加学生の主体的な取り組みに依拠する部分が大きいので、学生にとってはそれなりの負担となるが、その分、具体的な成果を実感できる。

『地域交流科目』一覧

	学部	科目名	担当	対象学年	開講期	単位
コア科目	教養教育科目	地域連携と都市再生A(ヨコハマ地域学)	内海・志村	1~4年	春	2
		地域連携と都市再生B(かながわ地域学)	高井・伊集・志村	1~4年	秋	2
選択必修科目	教養教育科目	建築の環境と防災	佐土原・河端 他	1~4年	秋	2
		ベンチャーから学ぶマネジメント	井上 他	1~4年	秋	2
		環境をめぐる諸問題	酒井 他	1~4年	秋	2
		現代の物流経営	松井	1~4年	秋	2
	教育人間科学部	健康スポーツ演習B	高橋和子	1~4年	春・秋集中	2
		健康スポーツ演習B(木・3限)	梅澤秋久	1~4年	H27年度対象外	2
		学外活動・学外学習 I	小池(研)	1~4年	春・秋	2
		環境と人間	田中(英)	3~4年	春不定期	2
		世代の多元性	安藤	2~4年	春	2
		現代社会の読み方A	安藤	1~4年	春集中	2
共生社会論ID		安藤	2~4年	秋	2	
ナンバーバルコミュニケーション		高橋和子	1~4年	春集中	2	
ワークショップ・多元的共生をめざして		H23年度まで開講	—	—	2	
ワークショップ・携帯電話と環境問題		H25年度まで開講	—	—	2	
経済学部	グローバルイノベーションと地域社会 II	H26年度まで開講	—	—	2	
	共生社会論 II B(国際社会学)	H26年度まで開講	—	—	2	
	共生支援論A	H26年度まで開講	—	—	2	
	地方財政	伊集	2~4年	春	4	
	地域経済政策	居城	2~4年	H27年度休講	4	
	国際環境経済論	氏川	2~4年	通年	4	
	現代社会福祉	相馬	2~4年	H27年度休講	4	
	比較農業政策	池島	2~4年	H27年度休講	4	
	地域イノベーション政策	遠藤	2~4年	秋	2	
	経営学部	産業分析(※公的規制論から変更)	貴志	3~4年	春	2
企業と社会		三戸	2~4年	秋	2	
生産システム論		松井	3~4年	秋 ※1	2	
生態会計論 I		八木	2~4年	春	2	
理工学部	地域・都市計画	中村(文)	2~4年	秋	2	
	居住空間の計画	藤岡	2~4年	春	2	
	屋外気候と建築環境	田中(稲)	2~4年	春	2	
	都市と都市計画	高見沢	2~4年	秋	2	
	建築・地域環境計画 I	佐土原	2~4年	秋	2	
地域課題実習	教養教育科目	地域課題実習 I	志村	1~4年	春集中	1
		地域課題実習 II	志村	1~4年	秋集中	1

※1 夜間7限で開講

●「地域連携と都市再生A・B」や選択必修科目の授業内容は、教養教育科目および各専門科目のシラバスをご覧ください。
●本プログラムの「地域連携と都市再生」「選択必修科目」「地域課題実習」はいずれも教養教育科目・専門科目の一部であり、各々は学部の単位としても認められるものです。